

## 令和5年1月（第5回）経営協議会議事要旨

日 時 令和5年1月25日（水）13時30分～15時15分

場 所 本部棟第一会議室（ウェブ会議システム「Microsoft Teams」を併用）

出席者 14／16

（学外委員）亀山 郁夫、鍵本 芳明、川崎 誠治、近藤 弦之介、松田 正己、  
加藤 貞則、梶谷 俊介の各委員

（亀山 郁夫委員は、ウェブ会議システム「Microsoft Teams」を使用して出席）

（学内委員）槇野 博史（学長）、高橋 香代（理事）、舟橋 弘晃（理事）、  
那須 保友（理事）、前田 嘉信（理事）、袖山 禎之（理事）、  
阿部 匡伸（理事）の各委員

欠席者

（学外委員）板東久美子、伊東香織の各委員

（学内委員）なし

陪席者

松本 光雄、大原 あかねの各監事

### ○ 前回議事要旨の確認

令和4年11月開催（第4回）の議事要旨（案）について、原案のとおり承認された。

### ○ 議事

#### 1 審議事項

##### （1）諸規則の改正について

高橋理事から、資料1に基づき、岡山大学学術研究院規則の一部改正について、副学域長を各学域の実態に合わせた構成とするため、また、大学院自然科学研究科及び大学院環境生命科学研究科の再編・統合に対応するため、本規則を一部改正し、令和5年4月1日で施行することについて、説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

##### （2）第4期中期計画の変更について

高橋理事から、資料2に基づき、第4期中期計画の変更について、令和5年度に実施する学部・大学院の改組に伴い、学生収容定員の変更があることについて、説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

##### （3）総合技術部の設置について

高橋理事から、総合技術部の設置について提案があり、続けて、那須理事から、資料3に基づいて、コアファシリティの共用化に向けたコアファシリティ構想の一環として、技術職員の集約組織となる「総合技術部」を令和5年4月1日に創設するとと

もに、技術職員の新たなキャリアパスを構築することについて説明があり、審議の結果、承認された。

#### (4) 令和5年度国立大学法人岡山大学予算編成方針(案)について

袖山理事から、資料4に基づき、令和5年度国立大学法人岡山大学予算編成方針(案)について、令和5年度は第4期中期目標期間の2年目であり、昨年度、第4期全体を見据えた基本方針を策定したことから、基本的にはこの内容に沿った形で予算編成を行うため、大きな変更はない旨、説明があった。続けて、支出予算にかかる方針について、経費性質に基づく3つの区分(戦略的経費、経常的経費、インフラ関連経費)ごとの方針、戦略的経費における重点事項、附属病院予算に関して説明があった後、予備費を引き続き想定される光熱費(電気料、ガス量)高騰に対応するための経費として、明示的に記載していることについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

## 2 報告事項

### (1) 12/20発生の鹿田キャンパス一斉停電事案について(資料は取扱注意)

前田理事から、資料5に基づき、12月20日(火)16時1分頃に鹿田キャンパス全域で発生した一斉停電に関し、その概要、発生原因等について説明があり、診療機能に大きな影響はなかったものの、事案をしっかりと振り返り、今後のリスク管理の向上に努めたい旨、発言があった。

### (2) 新型コロナウイルス感染症病床確保料の一部返還及び病院収支状況について(資料は取扱注意)

前田理事から、資料6に基づき、岡山大学病院では、岡山県からの要請により新型コロナウイルス感染症患者の専用病床を確保し、それに伴う即応病床と休止病床の病床確保料の交付を受けているが、当該補助金の過去の申請内容の確認を行ったところ、交付申請にあたって、病床区分を誤って申請していた等の事例が発覚し、約19億3千万円の過大交付を受けていたことが明らかとなり、その返還を行うことについて説明があった。続けて、今後の対応策と再発防止策についての説明があった後、補助金の返還を踏まえた収支見込についての説明があった。

### (3) 岡山大学病院の現状について

前田理事から、資料7に基づき、岡山大学病院は、日本屈指の診療拠点を目指して、特に、希少疾患診療、高度先進医療、ゲノム医療に注力していることについて発言があり、SWOT分析に基づいて、手術支援ロボットの拡大(ダビンチ3台体制)、外来手術センターの設置に伴う外科手術枠の拡大、ハイリスク妊娠分娩の対応のための周産期センターの拡充等強みをさらに強くすること、一方、患者数は多いが二次医療圏内シェアの低い疾患については、治験・移植・ゲノム治療等県内外の他の医療機関との差別化を図りたい旨、説明があった。また、日本屈指の教育拠点を目指して、良質

な医療人材を育成し、人口40万人以上の都市の基幹病院に対し、今後も派遣するほか、人材育成事業として、病院経営人材養成等も行っていくこと、日本屈指の研究拠点を目標として、臨床研究中核病院（厚生労働省）、橋渡し研究支援拠点（文部科学省）及びがんゲノム医療中核拠点病院（厚生労働省）として、研究開発を推進するとともに産学共創を推進し、オープンイノベーションプログラムを整備すること、デジタル田園健康特区においても、地域のマルチステークホルダーとともにイノベーションを創出したい旨、発言があった。続けて、病院経営に関して、岡山大学病院では、病院の収入を得る力の指標となるEBITDA（医業利益＋償却費）の値を見ても低下の一途を辿っており、2016年度は旧六大学の中で最上位であったものが、2019年度では最下位にまでなっていることについて説明があり、病院の収益性向上のためには、適正な診療報酬を獲得し、医療機関別係数を改善すること、病床稼働率だけでなくⅡ期以内退院（回転）が重要であり、短期間にこれらの改善に取り組んだ旨、説明があった。これらの取組に加え、外来手術センター、周産期センター及び放射線治療装置の整備によって、短期的には大幅な減益となるものの、2025年度からは収支バランスが改善する見込みであったが、昨今の電気・ガス料金の高騰や人事院勧告に伴う人件費増によって、さらなる経営改善が必要であり、新規入院患者数を増やすためのDX推進の方策として、富士通コンシェルジュ、NOBORI、インターネット予約（カルナコネクト）等の紹介があった。最後に、職員一同、全ての患者さんのために、医療・保健の発展のために、自己ではなく社会のためにしっかりと仕事をしていきたい旨、発言があった。

委員から、Ⅱ期以内退院による回転を向上させる上で、他院とどのように連携を図るのか、また、地域での医療レベル、教育レベルをどのように確保するのか質問があり、前田理事から、岡山大学病院での治療が終わったとしても、その患者自身の治療が完結していない場合、他院でのフォロー、加療が継続できるよう、総合患者支援センターを拡充し、入退院支援体制の強化を図ること、CMA-Okayama（岡山医療連携推進協議会）では、加盟6病院が連携して、治験の受託の獲得拡大に努めている旨の回答があった。

加えて、医師の働き方改革への対応、コロナ後の病床再編への対応について質問があり、前田理事から、時間外勤務が1,860時間を超える者はほぼおらず、勤務間インターバル、タスクシフト等の検討をさらに進めたいこと、病床においても、コロナ専用病床を一般病床に戻すのではなく、NICUの整備に充て、事実上の減床とするなどの対応を考えている旨の回答があった。

#### （4）令和5年度予算の伝達について

袖山理事から、資料8に基づき、文部科学省から伝達があった令和5年度予算について、文部科学省全体予算及び主な国立大学関係予算の概要について、説明があった。続けて、本学の予算の概要について、運営費交付金伝達総額が175.5億円（対前年度▲9.3億円）であり、その主な増減要因や成果を中心とする実績状況に基づく配分の影響額の状況について、説明があった。

(5) 財産の譲渡（売却）について

袖山理事から、資料9に基づき、農学部附属本島農場（一）及び（二）の譲渡（売却）にあたり、見積公告を実施したところ、1社から、固定資産台帳上の帳簿価額を上回る505万円で提示があり、譲渡（売却）が決まったことについて、報告があった。続けて、当該額から諸経費及び国への納付額を控除した額の約109万円が本学の令和4年度の雑収入となる見込みであること、これまで、維持管理費用として、年間約60万円を要していたが、譲渡手続完了後は経費節減となる旨、説明があった。

(6) 令和4年度役員評価について

高橋理事から、資料10に基づき、令和4年度役員評価について、役員個人の業績評価の仕組み並びに役員の退職手当及び期末特別手当への反映の仕組みについて説明があり、学外委員に対し学長及び常勤監事の評価（常勤監事は年度中途での就任のため、②業務の執行状況に関する評価のみ）を実施することとしているため協力願いたい旨依頼があった。

(7) 岡山大学統合報告フォーラム2022の実施報告等について

高橋理事から、資料11に基づき、「岡山大学統合報告書2022」の発行にあたっては、昨年度分のアンケートに基づいた改善事項を踏まえ、データセクションを充実させたこと、本学の抱える課題についても提示したこと、端的にわかりやすい文章を心掛けたことについて報告があった。続けて、12月17日（土）に開催した「岡山大学統合報告フォーラム2022」に関して、フォーラムの参加者は132名（会場72名、オンライン60名）であったこと、若い方々のディスカッションに加え、亀山先生から深いご意見をいただき、充実したフォーラムであったことの報告があった。さらに、「岡山大学統合報告書2023」の発行に向けて、何のために、誰のために作成するのか、他の広報誌との棲み分けを明確に整理することが必要である旨、発言があった。

(8) 新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応状況について

那須理事から、資料12に基づき、新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応状況本学について、新型コロナウイルス感染症の第8波は、ピークアウトしつつあるものの、医療機関の逼迫状況は続いていることを教職員に伝えながら対策を行っている旨、発言があった。続けて、1月現在の本学の罹患者数は560名であること、引き続き、新型コロナウイルス大学拠点接種（オミクロン株対応ワクチン）を継続的に実施していること、また、季節性インフルエンザとの同時流行に備えて、インフルエンザワクチン接種を実施したこと、新型コロナウイルス抗原検査事業を開始したことの報告があった。

委員から、入試への対応状況について質問があり、舟橋理事から、昨年度と同様に、しっかりと換気をする、十分に距離を取る、全ての会場にアルコール消毒液を設置することを徹底するとともに、体調不良の場合は無理をせず、追試を受験するよう案内している旨の回答があった。

(9) 令和5年度国立大学法人岡山大学経営協議会開催日時等について

林総務・企画部総務課長から、資料13に基づき、来年度の本会議の開催予定について案内があった。

3 その他

(1) 学長から、1月11日の日本経済新聞(31面)のインタビュー記事、1月26日に開催される共育共創コモンズ完成披露式典の案内、1月13日に学長が皇居に招かれた講書始の儀の紹介があった。

(2) 次回開催日について

今回は、3月22日(水)13時30分から津島地区本部棟において開催することとなった。

以上